

内田洋行

---

環境・社会報告書 2007





# CONTENTS

1. 社長メッセージ	1
2. 内田洋行の概要	
(1) 会社概要	2
(2) 業績概要	2
(3) 内田洋行グループの事業構造	3
(4) ISO等の取得状況	3
(5) 内田洋行の経営	4
(6) コンプライアンス	4
(7) コーポレート・ガバナンス	5
(8) 社員のために	5
(9) 情報管理	6
3. 環境方針	7
4. 特集	8
5. 環境活動のまとめ	9
6. 環境経営基盤	
(1) 環境マネジメント体制	10
(2) ISO14001取得状況	10
(3) 2006年度部門別環境目標と実績(抜粋)	11
(4) 環境監査	12
(5) 環境教育	12
7. 環境コミュニケーション	13
8. サプライチェーンマネジメント	
(1) 環境管理	13
(2) 品質管理	14
(3) 外注先とのコミュニケーション	14
9. 製品・サービスにおける環境保全への貢献	
(1) 製品のライフサイクルにおける環境負荷低減	15
(2) 環境対応製品(DTワゴンシリーズ)紹介	15
(3) 環境に配慮したもののづくり	16
(4) 環境教育教材	17
(5) 環境負荷低減に貢献するサービス	17
10. 事業活動における環境負荷低減	
(1) 内田洋行グループの環境パフォーマンス	18
(2) 内田洋行オフィスの環境負荷の推移	19
(3) 製造工程における取組み	20
(4) 物流工程における取組み(物流体制の整備)	22
(5) 製品使用後における取組み	23
(6) オフィスにおける取組み	23
11. ユニバーサルデザイン	25
12. 企業市民活動	26
13. 内田洋行グループの環境・社会活動年表	28

## 環境・社会報告書発行にあたり

内田洋行は、当社の環境ならびに社会活動にかかわる情報をわかりやすく開示し、事業活動に関係するさまざまなステークホルダーの方々とコミュニケーションを図ることを目的に、第8版の環境・社会報告書を発行します。

### ■主な報告対象者

お客様、株主・投資家、代理店、従業員およびその家族、調達先、グループ会社、事業所近隣住民のみなさま

### ■報告書対象期間

2006年7月21日～2007年7月20日。ただし、一部については、明記の上、他の期間とするものもあります。

### ■報告書対象範囲

株式会社 内田洋行  
 グループ会社の一部(主要製造・物流・施工会社):株式会社サンテック、株式会社太陽技研、江戸崎共栄工業株式会社、さくら精機株式会社、株式会社マービー、ウチダエムケー SDN.BHD、株式会社オリエント・ロジ、株式会社陽光、株式会社ウチダテクノ

### ■参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」  
 環境省「環境報告書の記載事項等の手引き(2005年12月)」

### ■報告書の発行

本報告書は、2007年10月にホームページ上に公開し、11月に冊子として発行します。次回は2008年10月ホームページに公開する予定です。

ホームページ <http://www.uchida.co.jp/eco/>

### ■発行部署、問合せ先

品質環境部 環境課  
 電話：03-5634-6055 e-mail : [eco@uchida.co.jp](mailto:eco@uchida.co.jp)

### ●本報告書で使用する主な略語・略称

3R	Reduce(リデュース、発生抑制)、Reuse(リユース、再利用)、Recycle(リサイクル、再資源化)の略
CO <sub>2</sub>	二酸化炭素
CSR	企業の社会的責任。Corporate Social Responsibility
EMS	環境マネジメントシステム
F☆☆☆☆	ホルムアルデヒド発散に関するJIS(日本工業規格)またはJAS(日本農林規格)の基準。F☆☆☆☆は、ホルムアルデヒドの放散速度が0.005mg/m <sup>3</sup> ・h以下、F☆☆☆☆は0.02mg/m <sup>3</sup> ・h以下
GPN	グリーン購入ネットワーク
ISO9001	国際標準化機構(ISO)が定める品質マネジメントシステム(QMS)の国際規格
ISO14001	国際標準化機構(ISO)が定める環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格
ISO27001	国際標準化機構(ISO)が定める情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の国際規格
ISMS	情報セキュリティマネジメントシステム
JEMA	(社)日本教材備品協会。学校用教材、備品の業界団体
JOIFA	(社)日本オフィス家具協会。オフィス家具の業界団体
LCA	ライフサイクルアセスメント、製品の一生における環境負荷を評価すること
NO <sub>x</sub>	窒素酸化物
PCB	ポリ塩化ビフェニール
RoHS指令	EU(欧州連合)の電子・電気機器に含まれる有害物質(鉛・水銀・カドミウム・六価クロム、PBB、PBDE)の使用規制
VOC	揮発性有機化合物の総称で100種類以上の物質がある。Volatile Organic Compounds
製品アセスメント	製品ライフサイクルにおいて、製品の環境負荷を予め評価し、その軽減措置を製品の中につくり込むこと。
環境側面	環境に影響を及ぼしているか、または影響を及ぼす可能性のある組織の活動・製品・サービスの要素。



株式会社内田洋行 代表取締役社長

## 向井 眞一

### 現在の経営環境と内田洋行のあり方

地球温暖化、グローバルな環境破壊や資源の枯渇が危機的な状況となりつつあり心配です。

私たち人類の経済発展が、大きな負債を次の世代に残そうとしている今、持続可能な社会を実現するために何ができるか。企業の社会的責任として、内田洋行も真剣に取り組んで行かねばなりません。そして、その取り組みを形ばかりのものにせず継続して行くためには、本業の中で行っていくことが大切であると考えます。

当社は、1910年の創業以来、「働く場」「学ぶ場」といった「人のための場」創りに貢献してまいりました。特に、近年では通信技術の劇的な進歩とネットワークの高度化による、「ユビキタス」を核としたソリューションの提供に努めております。これらの本業において、従業員個人からグループ企業まで、危機感を共有化して継続的に環境・社会貢献を行う意志を持つ企業を目指します。

### 本業における環境・社会貢献

企業としての継続的な取り組みは、その主体である企業の持続的な成長があって初めて実現できます。そのためには、環境保全活動を通して新たな経済的価値を創出する「環境経営」に取り組むことが重要であり、内田洋行グループとして、経営のあらゆる側面に「環境・社会」の視点を取り入れ、事業活動の環境負荷を最小限にする日常の管理・改善に取り組んでおります。

当社では、1999年7月に環境マネジメントシステム規格ISO14001の認証を『潮見オフィス』で取得して以来、大阪・北海道・九州、新川本社で取得し、関係会社を含む内田洋行グループ全体での環境マネジメントを推し進めております。この環境マネジメントシステムを環境経営のツールとして、より使いやすく、実効性のあるものに向上させたいと考えております。

### パートナー企業とともに

従来より、商品開発や製造、物流での業務効率向上と環境負荷削減に努めてまいりました。韓国釜山に設けた物流拠点は、輸入品の調達・物流に留まらず、組み立て加工・検品など付加価値のある業務へと進め、グローバルなサプライチェーンの要(かなめ)として全体最適と効率化を図るべく、業務を開始しました。

また、内田洋行の事業活動による環境負荷削減を考えるには、商品・サービスの開発・製造から物流・廃棄など、ライフサイクル全般での環境負荷低減を図る必要があります。当社およびグループ企業だけでなく、内田洋行の商品・サービスのライフサイクル各ステージに携わるお取引先の方々に「ウチダ環境パートナー」と位置づけ、環境負荷低減に取り組むサプライチェーンマネジメントを行っております。品質マネジメント規格ISO9001と環境マネジメントシステムISO14001の統合的な活用により、到達する目標を定め、協力して改善に取り組む体制を作り、お客様から要請の多い有害物質削減などの化学物質管理や環境配慮設計などを推進してまいります。

### 今後の取り組み

この環境・社会報告書では、コンプライアンスやコーポレートガバナンス、雇用や労働環境など社会的側面の報告を増やしました。ステークホルダーの皆様理解され共感を得られるよう、今後とも経営の透明性を高め、内田洋行の事業活動が、どの面から見ても社会的責任を果たしていると認めていただける、「品格のある企業」を目指し、社会的活動においても質を上げていきたいと考えております。お客様やパートナー様と共に、内田洋行グループの一人ひとりが社会的責任を果たしていけるよう、より一層の努力をしております。

皆様には今後の活動改善のために、忌憚のないご意見、ご感想をお願いするとともに、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

## 1 会社概要

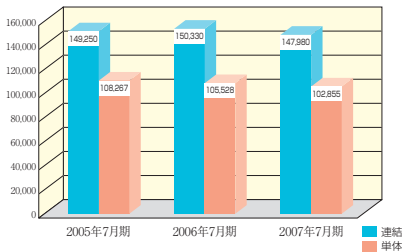
<b>会社名</b>	株式会社 内田洋行 UCHIDA YOKO CO.,LTD.
<b>本社</b>	〒104-8282 東京都中央区新川2-4-7 ※上記は登記上の本社所在地であり、実際の本社業務は下記にて行っています。 〒135-8730 東京都江東区潮見2-9-15
<b>創業及び設立</b>	1910年(明治43年2月) 創業 1941年(昭和16年5月) 設立
<b>代表者</b>	代表取締役社長 向井眞一
<b>資本金</b>	5,000百万円(2007年7月20日現在)
<b>事業所</b>	支店支社：大阪支店、北海道支社、九州支社 営業所：盛岡、仙台、立川、つくば、横浜、さいたま、千葉、高崎、沼津、静岡、新潟、名古屋、金沢、京都、神戸、岡山、広島、北九州、高松、熊本 物流センター：札幌、鹿沼、江戸崎、京葉、犬山、大阪、釜山
<b>グループ関連企業</b>	グループ会社：52社(2007年7月20日現在) 海外現地法人：5社(アメリカ、マレーシア[2ヶ所]、シンガポール、中国)

<b>従業員数</b>	1,500人(単体)、3,502人(連結)
<b>生産/販売種目</b>	オフィス関連事業：オフィス家具、環境設備品、OA機器、OA関連機器、事務機械、事務用品 教育関連事業：ICT*関連商品、理化学機器、教材教具、各種教材ソフト、視聴覚機器、施設設備品 情報関連事業：サーバー機、パーソナルコンピュータ、ネットワーク関連製品、各種アプリケーションソフト、システムインテグレーションサービス *注 ICTはInformation&Communication Technologyの略称です。
<b>認証</b>	ISO14001(2004)：NQE-05030009A 初回認定1999年7月26日 有効期限2008年7月25日 ISO9001(2000)：NQA-05030034A 初回認定1996年7月17日 有効期限2008年7月16日 プライバシーマーク：第A480001(04)号 初回認定2000年7月19日 有効期限2008年7月18日 ISO27001(2005)：IS 507337※ 初回認定2007年1月12日 有効期限2010年1月11日 ※ISO27001は情報システム事業部のみ取得

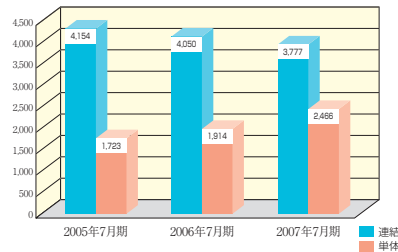
## 2 業績概要

### ■連結業績

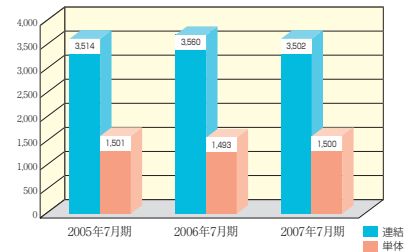
売上高推移(百万円)



経常利益推移(百万円)

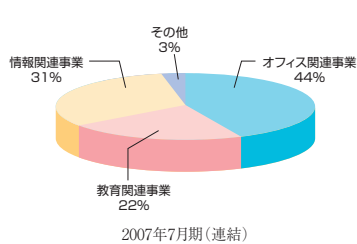


従業員数推移(人)

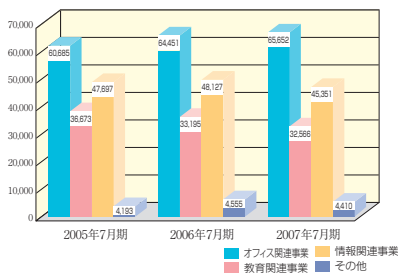


### ■セグメント概要

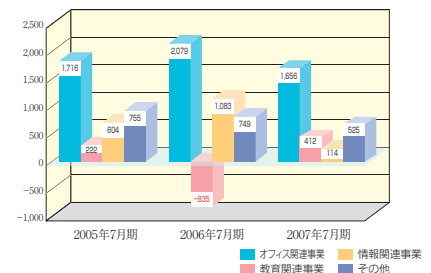
セグメント別売上高構成比



セグメント別売上高推移(連結)(百万円)



セグメント別営業利益推移(連結)(百万円)



### ■オフィス関連事業

最新のIT機器やオフィス家具の開発・提供はもとより、ワーカーの知的生産性を高める先進オフィス空間の構築・サポートまでをトータルに行っています。情報を核にしたオフィス創りが当社の強みです。

### ■教育関連事業

業界のトップ企業として、ネットワークを駆使した学校のコンピュータ教育のためのシステム開発から、各種コンテンツの開発・提供及び多様な教材・教具、環境設備品の提供など総合的な教育環境支援事業を展開しています。

### ■情報関連事業

1961年の発足以来、我が国の中堅・中小企業を中心に官公庁・自治体、福祉施設まで、あらゆる事業分野向けにブロードバンド時代に対応した最先端のシステム・ソリューションを提供しています。

### ■その他事業

商品配送・保管などの物流事業やITを中心とした人材派遣・教育研修事業から総務サービス、不動産賃貸事業など、上記の基幹3事業を支援する業務を行っています。



## 5 内田洋行の経営

### ■内田洋行の企業理念

内田洋行グループは、「人間の創造性発揮のための環境づくりを通して豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念のもとに独創的な事業を展開し、社会への貢献と企業価値の向上を目指しています。

### ■経営方針

「21世紀社会に貢献できる新しい企業ブランドの創造」をテーマに掲げ、「情報」「教育」「オフィス」の3つのドメインに対し、顧客満足度を高められる革新的な商品やサービスの提供によって新たな企業価値の創造に取り組んでいます。

内田洋行グループの事業は、「働く場」や「学ぶ場」といった、「人」や「社会」の未来に貢献するものです。環境保全活動に積極的に取り組むことは当然の責務であり、加えて経営にあたっては、皆様に理解され共感を得るべく、コンプライアンスを重視し活動します。

## 6 コンプライアンス

企業は、その活動を通じて安定した収益をあげ、社会にもその利益を還元することを目的としています。ただし、その活動は、法令を順守し、社会倫理に則った行動でなければならず、収益をあげるためには手段を選ばないといった活動は、決して認められるものではありません。

企業は人の集合体です。企業が法令を順守し、社会倫理に則った行動をすることは、企業を構成するすべての個人が法令を順守し、社会倫理に則った行動をすることに他なりません。

内田洋行グループは、この信念のもと、次の対応を行っています。

### ■「コンプライアンス・デイ」

2003年より毎年12月1日を「コンプライアンス・デイ」と定め、コンプライアンスの意義とその重要性をグループ各社に対し徹底するよう再確認しています。

### ■「内田洋行グループ行動規範」

法令を順守し、社会倫理に則った企業活動を行うため、日頃から心掛けるべき行動を示した「内田洋行グループ行動規範」を制定し、各社の役員・社員全員に配布しています。行動規範の内容は、以下の通りです。



### ■行動規範の内容

#### 1. 総則

1. 内田洋行行動規範の適用範囲
2. 罰則
3. 統括部門・運用部門
4. 相談・申告窓口
5. 社員の誓約書

#### 3. 顧客・取引先・競争会社との関係

1. 製品の安全性
2. 独占禁止法の遵守
3. 購入先との適正取引、下請法の遵守
4. 不正競争の防止
5. 接待・贈答
6. 適正な宣伝・広告

#### 5. 社員との関係

1. 人権尊重・差別禁止
2. セクシャルハラスメント
3. プライバシーの保護
4. 職場の安全衛生
5. 労働関係法の遵守

#### 2. 社会との関係

1. 社会への貢献
2. 法規範の遵守
3. 寄付行為・政治献金規制
4. 反社会的勢力との関係断絶
5. 環境保全・保護
6. 安全保障貿易管理

#### 4. 株主・投資家との関係

1. 経営情報の開示
2. インサイダー取引の禁止

#### 6. 会社・会社財産との関係

1. 就業規則の遵守
2. 適正な会計処理
3. 利益相反禁止
4. 政治・宗教活動の禁止
5. 企業秘密の管理
6. 会社資産の適切な使用
7. 情報システムの適切な使用
8. 知的財産権の保護

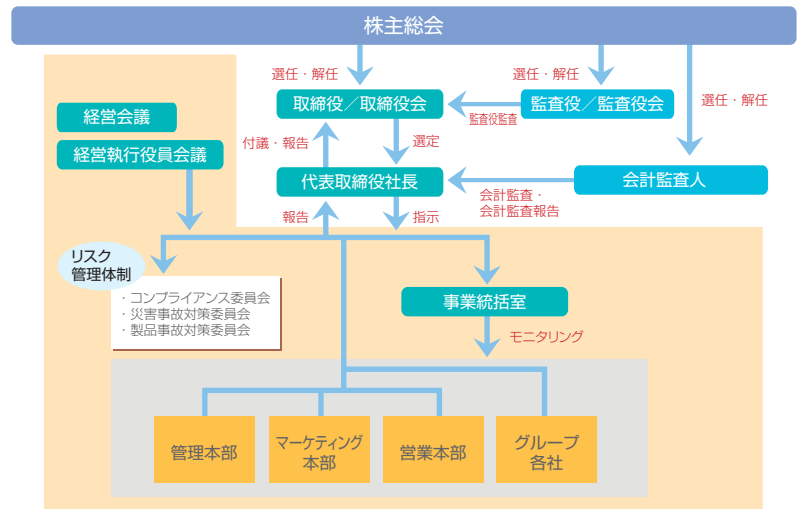
### ■内部通報システム「内田洋行グループ・ホットライン」

法令違反その他コンプライアンスに関する重要な事実についての内部通報体制として、総務部および顧問弁護士を直接の情報受領者とする内部通報システム「内田洋行グループ・ホットライン」を設置し、「内田洋行グループ内部通報規程」に基づき、その運用を行っています。

## 7 コーポレート・ガバナンス

内田洋行は、経営環境の変化に対応した迅速な意思決定と、責任の明確化および事業の透明性の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいます。具体的には、昨年、執行役員制度を導入し、経営管理機能と業務執行機能の分離を進めました。経営環境の変化に迅速に対応できる機動的な経営体制の確立と取締役の経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年とする等の施策を実施しています。

■内田洋行の内部統制システム推進体制



## 8 社員のために

### ■健康診断

内田洋行グループは、内田洋行健康保険組合と協力して社員の健康づくりに努めています。年1回の定期健康診断だけでなく、33歳以上の社員ならびに被保険者には生活習慣病や人間ドックの受診機会を提供し、その結果に基づいて保健師が保健指導を行うなど、一人一人が自分自身の健康を適切に管理するための支援を行っています。また、この他にもメタボリック予防のために、希望者には万歩計を配ってウォーキングを奨励するなど、楽しみながら健康改善につなげる取り組みを行っています。



### ■メンタルヘルス対策

内田洋行グループでは、社員のメンタルヘルス予防対策のため、各種施策に取り組んでいます。社内イントラネットに体調不良を感じた場合の対応策を掲示するとともに、昨年秋には管理者を対象とした「ラインケア」のための研修会を全国6事業所で計11回開催、462名の内田洋行および関係会社の管理職が受講しました。また、内田洋行健康保険組合と協力して、産業医や保健師による相談対応、外部の専門機関を利用した電話によるカウンセリングなどを行っています。

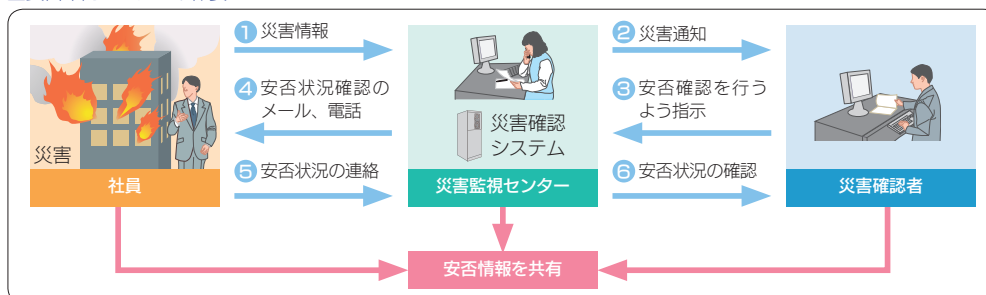
### ■安否確認システムの導入

地震や台風などの自然災害、テロなどの人為災害など、非常事態発生時を想定し、何よりも急務となる社員の安否確認と現地の情報収集、そして情報の共有化を迅速に行うため安否確認システムを導入しました。

#### 〈システムの内容〉

1. 本システムの提携会社に設置されている「災害監視センター」が24時間365日体制で国内の災害情報を収集し、地震であれば震度5以上、その他事前に取り決めた災害などが発生すると、災害対応の実施について判断します。
2. 安否確認メールを災害エリアの社員に送信します。パソコンや携帯電話から専用ホームページ、電子メール、電話（音声自動応答）を用い、社員自らの安否、出社可否、家屋の状態などを登録します。これにより、社員とその家族の状況が把握できます。
3. 簡単な操作で、家族だけの安否確認ができる掲示板機能を追加できるよう設定しています。

■安否確認システムの概要



9 情報管理

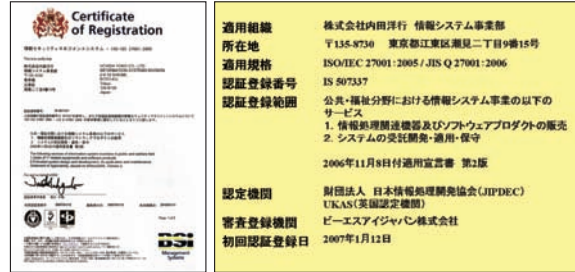
■情報セキュリティ

内田洋行 情報システム事業部は、2005年9月より情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)の構築に取り組み、2007年1月に公共・福祉分野において、ISO27001の認証を取得しました。

内田洋行グループでは4社が認証取得していましたが、期中新たに1社(オフィスブレイン)が認証取得しました。



お客様への案内板 鍵保管ロッカー 執務ゾーンのセキュリティ サーバ室の入退室



ISO27001適合証明書と認証登録内容

【ISMSとは】

企業や公共団体などの組織体が、情報に関するセキュリティを管理するための枠組みのことで、国際規格としてISO27001があり、日本全国で2,326組織が認証取得しています。(2007.9.21現在)

■個人情報の保護(プライバシーマーク)

2006年に改訂された日本工業規格「JIS Q15001:2006 個人情報保護マネジメントシステム—要求事項」に基づき、個人情報保護基本規程を改定しました。

内田洋行グループでは7社がプライバシーマークを取得していましたが、期中、東京ウチダシステム他3社が取得、2007年度中に2社が取得の見込みです。



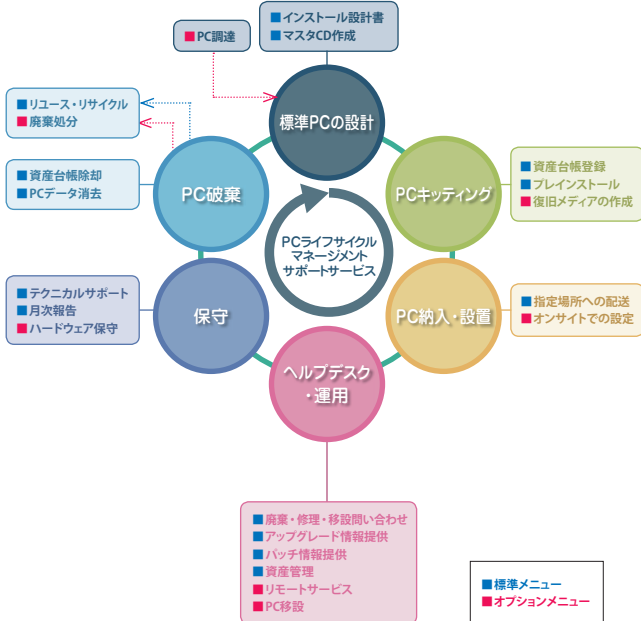
■PCリサイクルのルール見直し

新ルールでは、ウチダエスコの「PCライフサイクル・マネジメント・サポートサービス(PCLM)」を活用し、ISMSの認証を取得している信頼性の高い業者がハードディスクのデータ抹消をしてからリユース、リサイクルするしくみになっています。



リサイクル対象のパソコン

■ウチダエスコ PCLMサイクル



■e-ラーニングによる全社員への教育

【標準学習時間】4時間

【コース概要】

学習内容	
第1章	加害者?被害者?となり合う情報漏えいの危険
第2章	ここから始まる情報セキュリティ
第3章	ケーススタディで学ぶ情報セキュリティ
第4章	当社における個人情報保護
	レッスン1 - セキュリティとプライバシーの違い レッスン2 - プライバシーマーク取得企業として トピックス - 人事規程に定めている罰則内容 トピックス - プライバシーマーク取り消しの事例 レッスン3 - 当社の個人情報保護方針 レッスン4 - 個人情報管理責任者の設置 レッスン5 - 個人情報の取得 トピックス - 「告知文」 トピックス - 「個人情報に関する許可・登録願(直接収集)」 トピックス - 「個人情報に関する許可・登録願(受託業務用)」 レッスン6 - 個人情報の利用と管理 トピックス - 「個人情報保管シート」 トピックス - 日頃から気をつけるべき基本的な項目 レッスン7 - 外部委託時の方針 トピックス - 「外部委託先評価票」 トピックス - 「誓約書」 トピックス - 「授受票」 レッスン8 - お客様の権利 レッスン9 - まとめ テスト - 確認テスト

■社内電子掲示板での注意喚起

- ・ 廃棄に関する注意点
- ・ 情報の取扱いに関する諸注意
- ・ 社内・自宅におけるファイル共有ソフト(Winny等)の使用禁止



## 環境理念

内田洋行は、国際社会の一員として地球環境問題が世界共通の重要課題と認識し、「事業活動と環境保全の調和」に努力します。  
また当社商品の品質と環境の両面に常に追求し「安心できる商品の提案」により、豊かな社会の実現とかけがえのない地球環境の次世代への継承を目指します。

## 基本方針

内田洋行は、自らの事業活動における当社商品の開発、調達、販売、保管・物流、製造工程に関する環境負荷を低減させるために、以下に基づき環境マネジメントシステムを実施する。

1. 環境関連の法律、規制、業界基準を遵守するとともに、自主基準、業務手順を整備し、環境マネジメントシステムの継続的改善と汚染の予防に努める。
2. 商品の企画・開発工程において、LCA（ライフサイクルアセスメント）に配慮し、環境保全の向上を目指した商品化を推進する。
3. 物流工程での、商品損傷と不適合品の発生を防ぎ、廃棄物の発生の低減に努める。
4. 販売業務およびオフィス業務において、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、およびグリーン調達を推進する。
5. 製品製造工程での環境管理向上のため、外部環境監査を継続的に実施し、製造に関わる環境負荷の軽減を目指す。
6. 環境方針達成のため、部門ごとに環境目的・環境目標を設定し、環境マネジメントシステムを推進・維持する。また環境影響評価を定期的にレビューし、必要に応じて環境目的・環境目標の改定を行う。
7. 環境方針は、電子化文書または小冊子にて、全従業員に周知徹底する。また、外部からの要求に応じて開示する。

制定日 1999年1月21日  
更新日 2002年10月21日

株式会社 内田洋行  
代表取締役 向井 眞一

## ウチダの「場」づくり

### ■「CANVAS (キャンバス)」(東京・新川オフィス)

多彩なIT技術とともに間伐材やリサイクル材で空間設計され、来場者のニーズに合わせ白いキャンバスに絵を描いていくように演出できるホール『CANVAS』。企業や学校など様々なお客様に多様なコミュニケーションの場を提供します。



### ■ユビキタス協創広場「U-cala (ユーカラ)」(北海道支社)

IT分野の産官学連携が活発な札幌エリアの地域活性化を目指し、コンテンツやデザインの研究実践を行う「場」で、杉材や間伐材も活用してデザインされています。支社開設60周年を迎えた2006年10月にオープンしました。



### ■「Customer Briefing Center」(東京・潮見オフィス)

ユビキタスをテーマに仮説やコンセプトを可視化するための多様なモックアップ品が披露される「場」です。間伐材や杉材とともにユビキタスソリューションが共存し、ITとデザインを融合したこれまでにない場を体感できます。



## 【間伐材と森林保全活動】

内田洋行は、間伐材を積極利用し森林保全活動につなげています。

### ■杉を使うと森が育つ

戦後、建築資材確保のための国策として植林された杉ですが、その後、輸入木材に押されて「やっかいもの」とすら言われた時代があります。間伐されずに荒れた林や伐りっぱなしで放置されている山も多く、森林の環境保全機能の低下が問題になっています。

杉を使い、林業を活性化させることにより、森林を育てることが求められています。

### ■間伐とは

人工的に植林する場合、生育を邪魔する雑草や雑木が生えないようにするとともに、太さの均一な木にするため、多くの苗木を隙間なく植えます。

こうして、隙間なく植林される人工林では、15～20年くらい経つと、混み合ってきて十分な生育ができなくなります。そこで、間伐(間引き)することより本数を減らして水分、養分や日光が十分行き渡るようにします。

間伐をしないと、成長の不十分な木が密集してしまい、日光が地面に届きにくくなり、下草が生えず、保水能力が無くなるなど森林の環境保持力が低下し、洪水や土砂の流出、生物種の減少の原因となります。

間伐材の用途減少や木材価格の低迷から、日本国内では間伐されない森林が増えています。



## 内田洋行グループの環境活動一覧

活動/テーマ		2006年度実績、トピック	ページ
コンプライアンス		コンプライアンス・デイ(12月1日)、内田洋行グループ行動規範の徹底 内部通報システム「内田洋行グループホットライン」運用	4
ガバナンス	コーポレートガバナンス	執行役員制度を導入	5
社員のために	メンタルヘルス対策	ラインケアのために研修会11回開催(参加462名)	5
	安否確認システムの導入	自然災害、人為災害などの非常事態時に社員の安否を確認	5
情報管理		内田洋行 情報システム事業部にてISO27001(ISMS)認証取得 オフィスプレインにてISO27001(ISMS)認証取得 個人情報保護に関する社員研修(e-ラーニング)実施	6
環境マネジメント	ISO14001認証取得	内田洋行グループ会社52社中17社(連結対象企業31社中16社)取得	3
	環境マネジメントプログラム	2006年度、部門別環境目標と実績	11
	環境教育	e-ラーニング3回目実施、1,779人修了	12
	環境コミュニケーション	お客様から環境に関してのお問い合わせ:172件 RoHS指令関連のお問い合わせが増加	13
サプライチェーン マネジメント	ウチダ環境パートナーシップ	活動指針(ガイドライン)第2版発行	13
	品質管理	外部品質監査・・・24社実施、改善要請・・・73件 現在実施中のリコール・・・CASTチェア、パリュウチェア	14
	外注先とのコミュニケーション	主要外注先、品質・環境会議を開催	14
製品・サービスにおける 環境保全への貢献	グリーン購入法適合品	適合30,879点	11,14,15
	教育系ウチダ環境対応商品	25品目追加(累計652品目)	11,15
	分別設計(DFE)	2テーマ(Regiaチェア、ミーティングチェア)実施	11,15
事業活動による 環境負荷低減	内田洋行グループ	エネルギー使用量325,575GJ	18
		廃棄物7,470t、リサイクル率78%、CO <sub>2</sub> 排出量16,249t	
	内田洋行単体	エネルギー使用量103,776GJ、:2001年度比10%減	19
		用紙使用量9,235千枚:1999年度比55%減	
		廃棄物457t、リサイクル率67%、CO <sub>2</sub> 排出量4,286t	
	製造工程における取組み	廃棄物削減(江戸崎共栄工業) 水資源投入量の削減(太陽技研)	20
		脱有機溶剤化(江戸崎共栄工業、さくら精機) 工場廃液ゼロ(江戸崎共栄工業)	21
	物流工程における取組み	リサイクルプラスチックパレット、紙製パレットの活用	22
		引き取り品リサイクル4,255t	23
		カタログリサイクル31.4t	24
	オフィスにおける取組み	地球温暖化防止活動(チームマイナス6%のためのウチダ・アクション)	24
		内田洋行大阪支店リニューアル工事(省エネオフィス化)	24
その他の事業活動	ユニバーサルデザイン	自社認定商品 850点	25
	地域社会貢献	少年サッカーチームヘグラウンドを開放	26
		教育教材を開発途上国の子供たちへ提供	26
		ビジネスインターンシップ制度(2006年:48名受入)	27

## 1 環境マネジメント体制

内田洋行では、以下の組織・体制の下、商品の開発から製造・調達・販売・保管・物流までのあらゆる事業活動を、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001に適合させ、持続可能な社会の構築に貢献しています。

全社員が環境方針を事業活動の中で共有して意識し、全社的な目標に加え各サイトで部門単位に改善のための目標を立て、プログラムを作成して目標達成に向け活動しています。

### ■社長

内田洋行では、社長を環境マネジメントシステムの最高責任者と定め、以下の様に責任・権限を明確にした組織・体制を構築しています。社長は、環境マネジメントシステムの維持・運用について、品質環境部長を環境管理責任者として任命します。

### ■マネジメントレビュー会議

社長は、環境マネジメントシステムの継続的な適切性と妥当性、有効性を確保するため、『マネジメントレビュー会議』を開催します。マネジメントレビュー会議は社長・各事業部長など、経営トップを中心としたメンバーで構成しています。



マネジメントレビュー会議

### ■環境委員会

環境委員会は、環境管理責任者の主催で開催される環境全般に関する審議及び環境情報交換の会議で、環境管理責任者・サイト管理責任者・潮見オフィス部門長により構成しています。

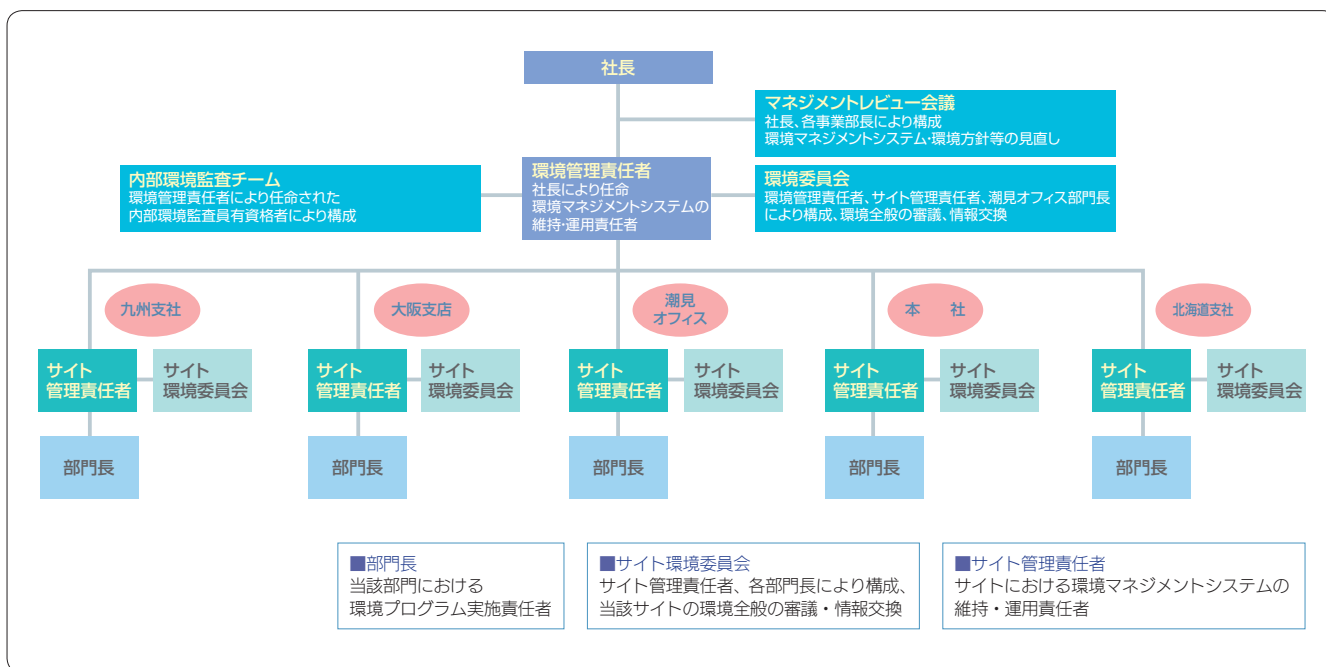
### ■内部環境監査チーム

環境管理責任者は、環境マネジメントシステムがISO14001の規格に適合し、適切に実施され維持されているかを確認するため、内部環境監査を計画的に実施します。なお、内部監査チームは環境管理責任者が認定した内部監査員により構成しています。

### ■サイト環境委員会

サイト環境委員会は、サイト管理責任者の主催で開催される環境全般に関する審議及びサイトにおける環境情報交換の会議で、サイト管理責任者・各部門長等により構成しています。

部門長は、当該部門における環境プログラムの実施責任者です。



## 2 ISO14001取得状況

内田洋行では、1999年7月に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を『東京 潮見オフィス』にて取得しました。その後、2002年に『大阪支店』『北海道支社』『九州支社』で、2004年に『東京 新川オフィス』で認証を取得し、2005年7月には2004年版への移行を完了しました。

### 3 2006年度部門別環境目標と実績(抜粋)

目的達成度の評価：◎大幅に達成、○達成、△未達成、×大幅に未達成

部門	項目	環境目標(2006年度)	目標の狙い	実施方法	評価	
商品企画	グリーン購入法適合商品の開発	・機器類(家具)および文具類の対応	・再生樹脂・古紙の使用率向上 ・間伐材などの使用促進 ・ホルムアルデヒドの使用削減	・新製品開発企画時に該当製品をチェック	△	・2006年度の制度変更(原木伐採証明)に対応していく
		・教育系商品該当品の対応			○	・新製品、該当品の適合完了
	ウチダ環境対応商品	・教育系商品627品目(2006年1月21日現在)を644品目(2007年1月20日迄)とする	・学校市場の要求に対応	・17品目追加	◎	・25品目追加(累計652品目)
	VOC類放散量の低減	・オフィス家具のF☆☆☆完全実施(木製品、接着剤)	・VOCの放散低減	・当該製品のDB化 ・未達成品のチェック	△	・輸入商品等にてF☆☆☆を完全対応するには至らなかった
		・ウチダ環境パートナー活動指針の化学物質放散評価基準に新規開発製品を適合させる			○	・新規開発製品、42品目について放散評価基準に適合させることができた
有害金属類(RoHS指令指定)の使用削減	・オフィス家具新製品での使用禁止	・有害金属類の削減	・製品仕様書に非含有とすることを明記	△	・各工場でのRoHS指令対応状況をDB化している	
テクニカルデザインセンター	分別設計の推進	・机、回転いす、収納家具、棚の対応	・製品の省資源化 ・製品の長寿命化 ・原材料としての再利用化	・新製品開発企画時に該当製品をチェック	△	・分別設計を一部実施
調達	長期滞在在庫の削減	・在庫金額を2003年度比20%削減	・廃却対象となる陳腐化商品の発生を抑え、廃棄による環境影響負荷を削減	・発注量のコントロールをきめ細やかに行う	×	・削減できず、増加となった
	有切商品在庫の削減	・在庫金額を2003年度比20%削減			◎	・2003年度在庫金額比44%減
	中止商品廃棄の削減	・2006年度の廃棄量を次年度中止決定時の在庫金額の15%以下にする	・廃棄による環境影響負荷の削減	・適切な価格設定	○	・中止決定時在庫金額の13%を達成
物流	保管・輸送での不適合品発生削減	・発生件数を2003年度比10%削減	・不適合品発生による環境影響負荷の削減	・商品積み付け手順の順守 ・フォークリフト操作基準の順守	◎	・2003年度発生件数比22%減
環境系事業	ロングライフ商品の拡販	・販売金額2003年度比110%以上	・長期利用による環境影響負荷の削減	・積極的な営業活動	○	・2003年度比112%を達成
	グリーン購入法適合商品の拡販	・販売金額2003年度比105%以上	・環境負荷低減	・積極的な営業活動	○	・2003年度比114%を達成

## 4 環境監査

### ■ 目的

内田洋行では、第一者監査(内部監査)、第二者監査(外部監査)の実施と第三者監査(外部審査機関による監査)により、EMSを監視する体制をとっています。これらにより、環境マネジメントシステムが検証され、適正に維持・運用されていることを確認します。

### ■ 第一者監査(内部監査)



社内全関係部門の取り組み状況を監査する、第一者監査を計画的に実施しています。監査は、環境管理責任者が認定した49名の内部監査員により実施されました。

監査の質の維持・向上を図るため、内部監査員に対し、計画的な教育を実施しています。



第一者監査

### ■ 第二者監査(外部監査)



商品の製造、物流(保管、輸送、引き渡し)、施工を委託する取引先やビル管理を委託する取引先に対し、第二者監査(外部監査)を計画的に実施しています。この監査により、当社が委託する事業活動の環境保全の実態を把握・評価し、その活動・製品・サービスに不適合があれば是正を行い、環境保全の維持・改善を図っています。



第二者監査

### ■ 外部監査実施件数(環境および品質、最近5年間)

期 間		件数(社)
2002年	2002年7月21日～2003年7月20日	25
2003年	2003年7月21日～2004年7月20日	23
2004年	2004年7月21日～2005年7月20日	16
2005年	2005年7月21日～2006年7月20日	19
2006年	2006年7月21日～2007年7月20日	26

### ■ 第三者監査(外部審査機関による監査)



内田洋行の環境マネジメントシステムがISO14001の要求事項に適合しているか、適切に維持・運営されているか検証を行う第三者監査(外部審査機関による監査)を受け、認証を取得しています。



登録事業所/活動の明細



第三者監査

## 5 環境教育

内田洋行では、各部門で教育計画を立案し、それを実施して全社員の啓発を行っています。また、内部監査員や新入社員に対しては、別に外部研修機関の活用も含む研修を実施してEMSの徹底を図っています。

さらに、全社員が地球環境問題について認識し、自らの業務や作業が環境に与える影響について学び、地球環境保全活動に関し、絶えず高い意識を持ち続け、企業活動の中で実践していくように、2005年より「e-ラーニング」による教育を導入しました。

e-ラーニング「環境教育2007年版」は、環境活動の効果・効用をより具体的にデジタルに表記したり、EMS全体の仕組みをイラスト入りで判りやすく表記したりするなど、より簡潔で親しみやすい内容に進化させています。

今期間中は、全社員、出向者、一部の関係会社を含めた1,779名を対象に実施しました。



内部監査員研修

### ■ e-ラーニング「環境教育2007年版」教育概要

【標準学習時間】3時間

【コンテンツ】《第1章～第3章》：「環境マネジメント」

《第4章》：「当社の取組み」ウチダオリジナル(社内作成)

【コース概要】

学習内容
第1章 地球環境問題のキーワード
第2章 企業を取り巻く環境問題と制度
第3章 ISO14001
第4章 当社の取組み
4.1 EMSの概要説明
4.1.1 EMS
4.1.2 環境活動の効果・効用の具体例
4.2 内田洋行のマネジメントシステム
4.2.1 全体構成
4.2.2 特徴
4.2.3 適用組織とサイト
4.3 内田洋行の環境方針
4.4 「著しい環境側面」の抽出/環境目的・目標
4.4.1 著しい環境側面の抽出
4.4.2 プラスの環境側面・環境影響
4.4.3 環境目的・目標
4.5 法的要求事項の特定と順守評価
4.5.1 環境側面に係る要求事項
4.5.2 法的要求事項特定の責任と権限、順守評価
4.6 マネジメントレビュー
4.6.1 環境委員会/サイト環境委員会
4.6.2 マネジメントレビュー(経営層による見直し)
4.7 内田洋行の環境活動
4.7.1 環境経営基盤
4.7.2 環境コミュニケーション
4.7.3 製品・サービスにおける環境保全への貢献
4.7.4 事業活動における環境負荷低減
4.7.5 企業市民活動

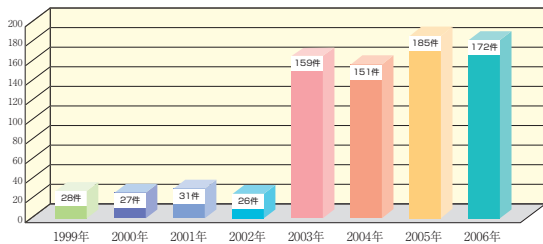
# 7 環境コミュニケーション

内田洋行では、社内、社外からの環境に関する情報が円滑に伝わるように、情報伝達の窓口や責任部門、手順等を明確にした環境コミュニケーションシステムを構築しています。このシステムにより、確実かつ迅速なコミュニケーションを可能にしています。

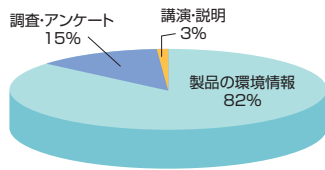
今期間中にお客様から環境に関してのお問い合わせを172件いただきました。その8割が製品の環境情報請求でした。製品の環境情報請求の中で、製品からのVOC（揮発性有機化合物）放散状況の情報請求は減少傾向にあります。RoHS指令対象物質の含有についての情報請求が増えています。当社では、製品の環境情報のデータベースを整備し、お問い合わせに迅速に回答できるよう努めています。

なお、法的要求に対する違反、事故、苦情はありませんでした。

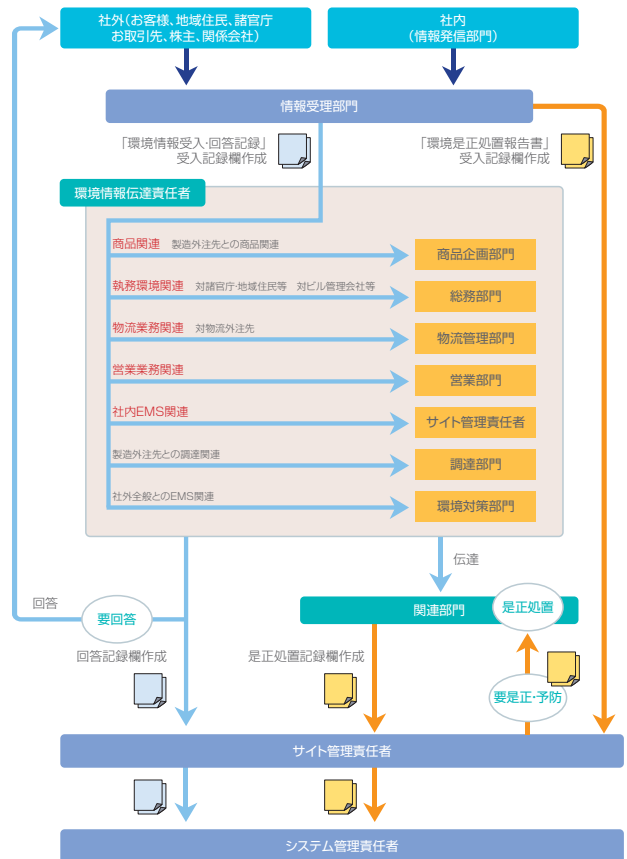
■お問い合わせの件数



■お問い合わせの内訳(2006年)



■環境情報伝達体制



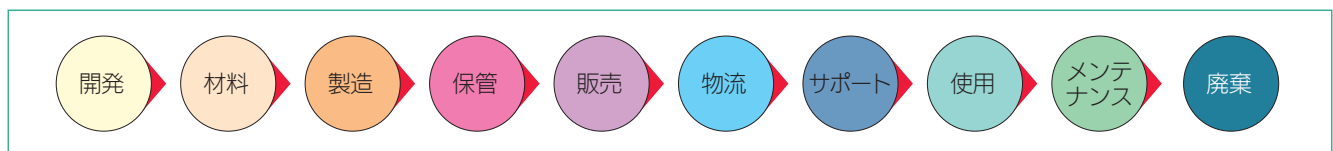
# 8 サプライチェーンマネジメント

## 1 環境管理

### ■ウチダ環境パートナーシップ(サプライチェーンマネジメント)

商品・サービスの環境負荷を考えるには、商品・サービスのライフサイクル全般での環境負荷低減を図る必要があります。そのために、内田洋行ならびにグループ企業だけでなく、商品・サービスの開発、調達、製造、保管、物流、販売、サポート、メンテナンス、廃棄に携わる方々を「ウチダ環境パートナー」と位置づけ、サプライチェーンとして共に環境負荷低減に取り組むパートナーシップを構築しています。

### 商品・サービスのライフサイクル



### ■活動指針(ガイドライン)第2版発行

ウチダ環境パートナーが行う環境活動は、多岐にわたっています。共通の認識と目標を持つために活動指針(ガイドライン)を発行しています。社会情勢の変化への対応と活動レベルの向上を目指し、2007年4月に第2版を発行しました。



#### ■環境パートナー様への要請

1. 環境関連の法的規制を順守する。
2. 環境に関する顧客要求に応える。
  - 2-1. グリーン購入法
  - 2-2. 化学物質放散管理 (VOC対策)
  - 2-3. 化学物質含有管理 (RoHS指令)
3. 製品アセスメントにより評価する。
4. 環境負荷をマネジメントする。
5. 積極的な環境コミュニケーション (情報開示や情報提供) を行う。
6. 商品の環境情報を管理する。
7. 環境監査
8. 商品情報を電子化し、共有する。

■ 共に取り組んでいる事項

(1) 法令の順守

順守すべき環境関連法規、業界ガイドラインを特定し、情報共有を行い、法令順守の体制確立を目指しています。

(2) 顧客要求に応える

1. グリーン購入法

2001年の法制定時より対応を進め、毎年改訂に対応しています。2006年度では、文具類、機器類に対して「合法的に伐採された木材」を使用することが基準に追加され、合法性の証明を発行する体制作りを行いました。



2. 化学物質管理

お客様から化学物質管理の要請を多く受けるようになってきました。調査手順や評価方法の整備を行い、有害物質削減を進めています。

- ・化学物質放散管理 (VOC低減)  
製品が、「学校環境衛生の基準、室内空气中化学物質の室内濃度指針を越える原因にならない」ことを要求事項として、

F☆☆☆、F☆☆☆☆規格材料を使用するなどの対策を進めています。(社)日本オフィス家具協会の「JOIFA室内空気質汚染対策ガイドライン」に則った評価基準を定めて製品を評価し、お客様の要請により情報開示を行っています。

- ・化学物質含有管理 (RoHS指令対象物質の含有管理)  
製品に法定禁止物質を含有しないことはもちろん、電気・電子機器業界のお客様から要請されるRoHS指令6物質 (鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE) 削減に取り組んでいます。

(3) 製品アセスメントにより評価する。

製品のライフサイクルにおける環境負荷軽減を目指す企画・開発を行い、それを製品アセスメントにより評価しています。その結果、当社基準により「ウチダ環境マーク」を付与し、グリーン購入法に該当しない製品の環境ラベルとしています。

このアセスメントは1997年から実施していますが、時代の要請に応えるよう評価項目の見直しを行いました。



2 品質管理

■ 外部品質監査

内田洋行では、計画的に外注先の品質監査を実施しており、今期間中は24社に実施、73件の改善事項を要請しました。

外注先の品質管理体制、設計管理体制、製造管理体制、検査管理体制、外注管理体制等を検証し、発見された問題点を是正することで、品質の維持・向上を図っています。



■ 在庫品検証

内田洋行 倉庫に保管している製品を計画的に検品・評価し、工場出荷後の品質を検証します。



■ リコール

内田洋行グループでは、商品に品質問題を生じ、その処置が不可欠であると判断した場合、新聞掲載、ホームページへの掲載などによりお客様へお知らせするとともに、製品の回収と無償修理等の対応をしています。

今期間中に内田洋行グループ取扱製品に関わるリコールはありませんでした。

【過去に告知し、現在実施中のリコール】

1. 「CASTチェア」のリコール (無償点検・修理)

<http://www.uchida.co.jp/recall/cast/index.html>

平成15年2月から平成16年7月に製造した「CASTチェア」に、背と座を組み付けるネジの締め忘れ、ネジの空転があり、そのままご使用になると背が外れて転倒する恐れがあります。そのため、平成16年8月に新聞、当社ホームページにて社告を行い、当該商品の無償点検・修理を実施しています。

対象脚数は29,200脚で、平成19年8月20日現在で25,107脚 (86%) の対応が完了しています。



2. 「パリュアチェア」のリコール (無償部品交換・修理)

<http://www.uchida.co.jp/recall/vf/index.html>

平成8年10月から平成11年10月にかけて製造した「パリュアチェア」の背反力強度調整つまみが、使用材料の樹脂の品質のバラツキにより、ごくまれにつまみが破損することが予想されるため、平成14年12月に新聞、当社ホームページ、販売店店頭への社告を行い、当該商品のリコール (無償部品交換・修理) を継続して実施しています。

対象となる総数は264,668脚で、平成19年8月20日現在62,022脚 (23%) の対応が完了しています。

今後も引き続き、部品交換・修理体制を維持し、回収を進めてまいります。



3 外注先とのコミュニケーション

サプライチェーンとしての環境管理、品質管理、個人情報管理のレベル向上を目指すため、「主要外注先 品質・環境会議」を開催しました。



【内容】

- ・最近の品質問題発生状況と品質管理について
- ・製品アセスメント基準改定
- ・製品安全と関連法規
- ・環境関連法規制の動向
- ・ウチダ環境パートナーシップ活動指針
- ・個人情報の管理について



内田洋行は、お客様に提供する製品・サービスのライフサイクルにおける環境負荷低減のために、様々な取り組みを行っています。

## 1 製品のライフサイクルにおける環境負荷低減



## 2 環境対応製品「DTワゴンシリーズ」紹介

### ■リサイクル設計

#### (1) 素材別解体

再利用可能な素材については分別解体が可能な構造になっています。

#### (2) 素材表示

廃棄時に分別しやすいように素材名を表記しています。

#### (3) リサイクルしやすい素材の活用

アルミ、再生材、環境負荷の少ない素材を採用しています。

### ■リデュース設計

#### (1) 部品番号の表示(主要パーツ)

樹脂射出成型部品ごとに部品番号表示をしています。メンテナンスしやすくなり、永くお使いいただけます。



### ■有害物質放散の少ない塗装

製造工場では、粉体塗装・水性塗装・電着塗装の3つの環境対応型塗装ラインにより、ホルムアルデヒドなどVOC(揮発性有機化合物)の放散が少ない塗装を行っています。

### 【製品カタログに表示している環境ラベル】



グリーン購入法適合商品

(社)日本オフィス家具協会(JOIFA)が「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律(グリーン購入法)」の普及と識別を目的として制定した統一マークで、グリーン購入法に適合していることを示しています。



ウチダ環境マーク

環境保全という見地から、ウチダ独自の製品アセスメント基準に照らし、設計・製造・流通・使用・廃棄のライフサイクルにおいて、一定の基準を満たしたものと認めた商品に付与しています。



JEMA学校教材・教具安全基準適合品

学校教材・教具で、製品からの有害物質(学校環境衛生の基準対象の6物質:ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン)の放散が(社)日本教材備品協会(JEMA)の定める基準以下であることを示しています。



JEMA安全基準適合品

### 3 環境に配慮したものづくり

#### ■設計・・・環境に配慮したものづくり

循環型社会を形成するために重要な、リデュース、リサイクル、省資源に配慮した設計を行っています。

#### (1) リデュース設計 (廃棄物を減らす工夫)

長寿命化(ロングライフ)・・・長く使うことにより、廃棄物を減らすことができます。

##### 傷みやすい部品を簡単に交換



チェアの背座クッションを  
工具無しで取り外せます。  
パーティションの表面  
パネル交換

##### 機能を変えられる

～必要にあわせてアップデートできる～

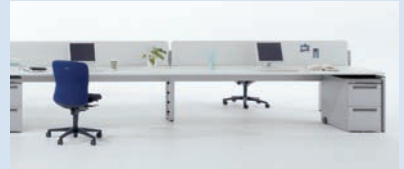


組み替え、パーツ追加で  
使い続けることができます。

パーティションの表面  
パネル交換

##### 解体しやすい

～頻繁な組織変更や移設が可能～



ドライバーのみで解体可能です。

#### (2) リサイクル設計 (解体・分別しやすくする工夫)

分別設計・・・廃棄するときに解体・分別できる設計をしています。

##### リサイクルしやすい材料の使用と樹脂部品の素材表示

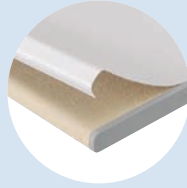
製品に使用する材料に、スチール、アルミなどの金属や、ポリエチレン、ポリプロピレン(PP)などのオレフィン系樹脂を積極的に採用しています。また、樹脂部品は材質が見分けにくいいため、素材表示を行っています。



チェア



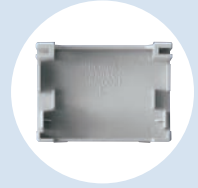
デスク



分離可能なメラミン化粧板(デスク天板)



背座、張り地にPP使用



樹脂部分の素材表示

#### (3) 再生材料の使用・・・省資源、リサイクルシステムを動かす

再生材料を使用すると、その材料を新規に生産するときと比べ、消費する資源・エネルギーを減らすことができます。しかし、無理なリサイクルは全体としての環境負荷を増すことがあるので、注意が必要です。

また、再生材料を使用することにより、リサイクルシステムの維持に貢献できます。



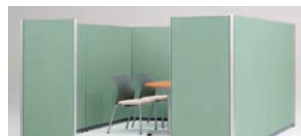
回収ペットボトル



PET綿



いす用クロス



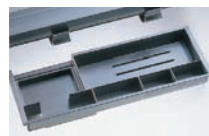
パーティション  
のパネル芯材



破砕片



ペレット



デスク用ペントレー



ボックス  
ファイル



ファイル

#### (4) 間伐材の使用・・・省資源、森林の育成

森林を育成し、森林の環境保持力を維持するためには間伐が必要です。内田洋行では、間伐を促進するために、製品への間伐材使用に努めています。製品に使うことで、木が吸収した二酸化炭素を使用期間中蓄え続けることになり、地球温暖化防止に貢献します。



杉間伐材の天板



杉間伐材の平行合板使用

## (5) 室内空気環境保全

シックハウス症候群の主な原因と考えられる、ホルムアルデヒドの放散が少ない材料の使用に努めています。



リボス自然塗装



ユニボードビュアHi



F☆☆☆☆の木質材



水性印刷インク

### 【換気励行のお願い】

#### ■製品購入時の注意事項

購入当時、化学物質の放散が多いことがあります。しばらくの間は、換気や通風を十分に行うようご注意ください。室内の換気が十分に行われないと、室内空気の化学物質濃度が高まり、健康に影響を及ぼすおそれがあります。

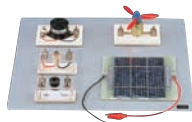
## 4 環境教育教材

持続可能な社会をつかっていくためには、次世代を担う子どもたちへの環境教育が大変重要です。内田洋行は、環境教育のための教材、実験器具を開発し、小学校、中学校、高校で行われている「環境についての学習」を支援しています。

### ■実験器具、体験教材



燃料電池自動車



太陽電池学習セット

### ■ソフト教材

授業で使いやすいソフト教材を多数、様々な形態で提供しています。

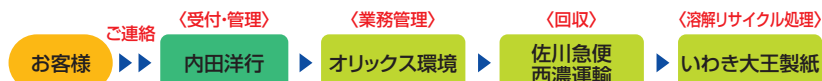


## 5 環境負荷低減に貢献するサービス

### ■リサイクルシステム

ウチダ重要文書処理システム <http://www.uchida.co.jp//ecobox/>

オフィスなどから発生する重要文書・重要書類を専用ダンボール容器<ECOBOX>で1箱から小口回収し、未開封のまま安全・確実にリサイクル処理(溶解処理)するサービスです。サービスは信頼性の高い企業との連携により提供しています。



#### ・重要文書のセキュリティ対策として

小口回収を行うことにより、重要文書を長期保存することによる“情報漏洩のリスク”を軽減します。「重要文書を早急に処理したい」「オフィスや倉庫に貯めておきたくない」というご要望にお応えできます。

ECOBOXを収納し鍵がかけられる、専用キャビネットをご用意しています。扉を開けたままで重要文書・重要書類を投函できるため、共有スペースや、人の出入りの多い場所に設置する場合のセキュリティも確保します。

#### ・環境に配慮したリサイクル

シュレッダー処理と違って紙の繊維を切ることがありません。専用ダンボール箱を含め、内容物は全てリサイクルされます。



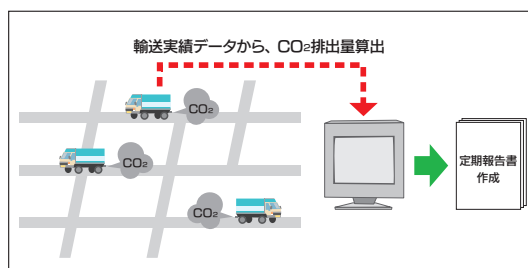
### ■省エネ法対応 CO<sub>2</sub>排出量算定パッケージソフト

ECO<sub>2</sub>-Calc (エコエコカルク) <http://www.uchida.co.jp/jsyohin/eco2-calc/>  
ECO<sub>2</sub>-Calc (エコエコカルク) は、改正省エネ法/改正温対法に対応したエネルギー消費量および二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量の定期報告書作成を支援するソフトウェアです。

環境CSR報告や、今後の削減目安のシミュレーションにも有効です。

#### ■特長

- ・燃料法、燃費法、改良トンキロ法に対応
- ・輸送距離を自動計算
- ・荷主按分対応
- ・定期報告書作成



## 1 内田洋行グループの環境パフォーマンス

企業は事業活動によって環境に対して負荷を及ぼしています。内田洋行グループでは、継続して環境負荷を測定し、できる限り削減に努力したいと考えています。

### ■対象事業所

オフィス：当社全オフィス（地区営業所を除く、本社・支店・支社）  
製造拠点：グループ製造企業国内5社、国外1社  
物流・施工拠点：グループ物流企业2社、施工会社1社

### ■対象期間

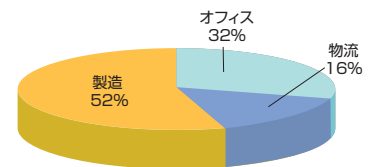
69期（2006年7月21日～2007年7月20日）

## INPUT

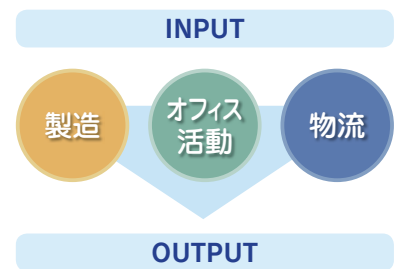
### ■エネルギー

	単位	合計	オフィス	物流	製造(国内)	製造(海外)
エネルギー合計	GJ	325,575	103,776	52,226	169,573	13,998
購入電力	kWh	18,975,055	8,652,282	1,937,111	8,385,662	999,500
灯油	kℓ	25			25	
A重油	kℓ	1,633	30		1,603	
都市ガス	Nm³	293,994	286,884		7,110	
液化天然ガス(LNG)	Nm³	0				83,182
液化石油ガス(LPG)	t	443			443	
車両ガソリン	kℓ	350	184	125	41	24
車両軽油	kℓ	732		728	4	
車両液化天然ガス(CNG)	m³	89,677		89,677		

### ■エネルギー使用比率(国内)



### ■INPUTとOUTPUTの関係



### ■水資源投入量、用紙使用量

	単位	合計	オフィス	物流	製造(国内)	製造(海外)
水資源投入量	m³	121,477	39,513	5,785	76,179	15,249
用紙使用量	t	56	37	11	8	1

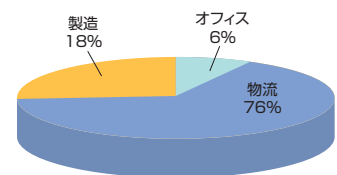
## OUTPUT

### ■廃棄物

「物流」からの排出が増加していますが、使用済み製品を引取り、分別して廃棄物となったものがほとんどとなっています。

	単位	合計	オフィス	物流	製造(国内)	製造(海外)
廃棄物等総排出量	t	7,470	457	5,672	1,342	90
リサイクル量	t	5,823	304	4,412	1,107	86
リサイクル率	%	78%	67%	78%	82%	95%

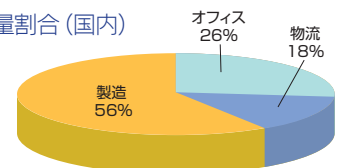
### ■廃棄物量割合(国内)



### ■CO<sub>2</sub>排出量

	単位	合計	オフィス	物流	製造(国内)
CO <sub>2</sub> 排出量	t	16,249	4,299	2,958	8,992

### ■CO<sub>2</sub>排出量割合(国内)



### 【算出方法】

環境省「温室効果ガス排出量の算定・報告マニュアルVer.2.1」（2007年6月公表）を参考にしました。

※製造(海外)のエネルギー合計、CO<sub>2</sub>排出量は、単位発熱量と排出係数が不明のため算出していません。

## 2 内田洋行オフィスの環境負荷の推移

### INPUT

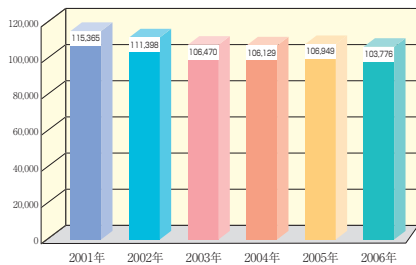
内田洋行オフィスでの2006年度エネルギー使用量は、2001年度比10%減と緩やかに減少しています。

「チーム・マイナス6%」に参加し、2007年6月～7月に冷房を抑制しました。その効果は2006年度の都市ガスと水の減少に見ることができます。

用紙使用量の減少は鈍化しながらも継続しています。2006年度使用量は、過去最高であった1999年度(62期)に比べ55%減、質量で44tの紙が削減されました。

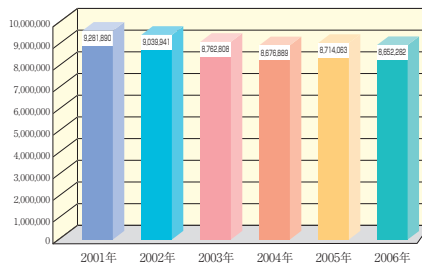
#### ■エネルギー

エネルギー合計(GJ)



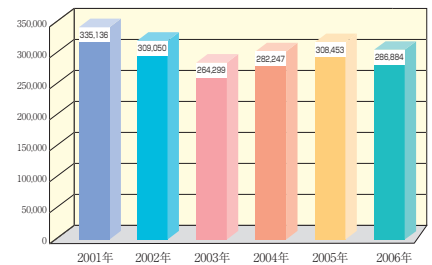
#### ■購入電力

購入電力(kWh)



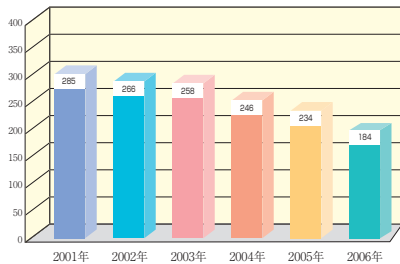
#### ■都市ガス

都市ガス(m<sup>3</sup>)



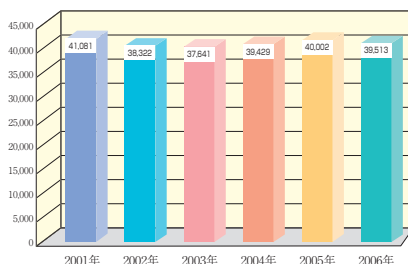
#### ■ガソリン

ガソリン(kℓ)



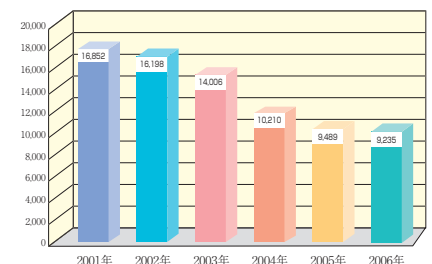
#### ■水資源投入量

水資源投入量(m<sup>3</sup>)



#### ■用紙使用量

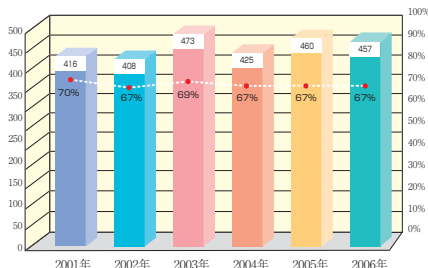
用紙使用量(千枚)



### OUTPUT

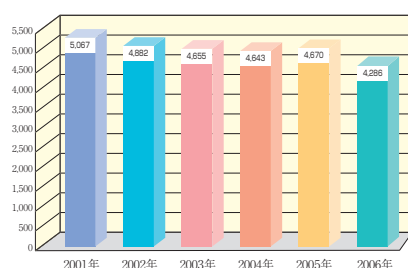
#### ■廃棄物

廃棄物合計(t)とリサイクル率



#### ■CO<sub>2</sub>排出量

CO<sub>2</sub>排出量(t)



#### 法律への対応(期間中新たに発生した法的要求への対応)

省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)の2006年4月改正により、荷主は自らの貨物輸送量を把握し、3,000万トンキロ以上であれば特定荷主として届け出、輸送エネルギー削減の計画書と定期報告の提出が義務付けられました。

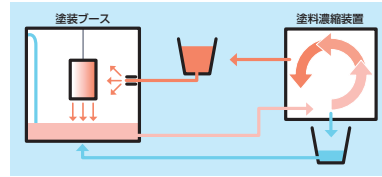
当社の2006年度(2006年4月～2007年3月)輸送量は、2,270万トンキロで、特定荷主には該当しませんでした。

### 3 製造工程における取組み

#### ■ 廃棄物の削減

##### ■ 水性塗装リサイクル・クローズドシステム (江戸崎共栄工業)

水性塗装では、吹付塗装プロセスにおいて製品に付着しなかった余分な塗料を回収。濾過装置によって水と分離した後、成分調製を行い再利用しています。分離した水も再び塗装水に利用しており、完全なクローズドリサイクルシステムの塗装を実現しています。



水性リサイクル塗装システム



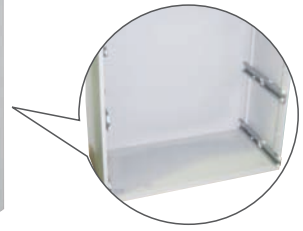
自動塗装ブース

##### ■ 塗装回収物のリユース (江戸崎共栄工業)

粉体塗装では、塗料を付着させてから焼付けしますが、付着しなかった塗料や、色替時の色が一定していない塗料は、かつて産業廃棄物として廃棄していました。この塗料を、キャビネットの本体内部に利用することで、産業廃棄物を減少させています。



リユース塗料を使用した製品例



製品の内部に使用

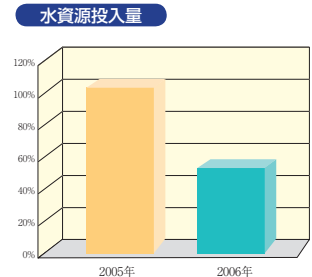
#### ■ 水資源投入量の削減

##### ■ スポット溶接冷却水の再利用 (太陽技研)

空冷式冷却水循環装置を導入し、スポット溶接の冷却水を再生使用しています。完全密閉式タンクによりバクテリアの繁殖や冷却水の酸性化を防止冷却水を長期間利用できます。水資源投入量を半減しました。

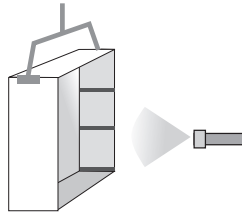


冷却水再生装置



#### 【スチール家具の主な塗装方法】

##### ■ 溶剤塗料吹付け塗装



###### ■ 溶剤

揮発性有機化学物質

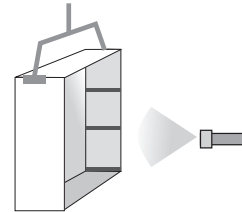
###### ■ 揮発性有機化学物質 (VOC) の放散

焼付け工程で揮発性有機化学物質が大量に放散されるが、一部が塗膜内に残留し、徐々に放散される。

###### ■ その他の特徴

- 一般的なスチール家具の塗装方法
- 付着しなかった塗料の回収はできない
- 色替えが容易

##### ■ 水性塗料吹付け塗装



###### ■ 溶剤

水+揮発性有機化学物質 (少量)

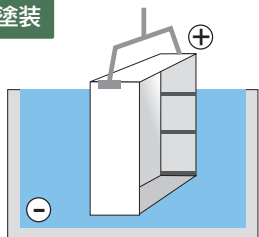
###### ■ 揮発性有機化学物質 (VOC) の放散

有機化学物質放散は極微量

###### ■ その他の特徴

- 付着しなかった塗料は回収、再使用可能

##### ■ 水性塗料電着塗装



###### ■ 溶剤

水+揮発性有機化学物質 (少量)

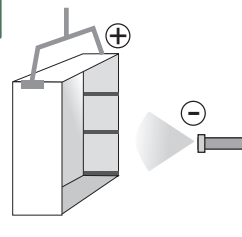
###### ■ 揮発性有機化学物質 (VOC) の放散

有機化学物質放散は極微量

###### ■ その他の特徴

- 塗料の無駄が少ない
- 裏まで塗装できる
- 色替えが困難
- 大きさに制限

##### ■ 粉体塗料静電塗装



###### ■ 溶剤

無し

###### ■ 揮発性有機化学物質 (VOC) の放散

有機化学物質放散は極微量

###### ■ その他の特徴

- 付着しなかった塗料は回収、再使用可能
- 色替えが容易
- 厚い塗膜を得られる

## ■ 汚染防止

### 大気

#### ■ 脱有機溶剤化 (江戸崎共栄工業)

有機溶剤を含まない塗料を使用しています。

シンナー、トルエンなどの有機溶剤を使用せず、主に水を溶剤とする水溶性塗料、全く溶剤を使わない粉体塗料を使用しています。したがって、塗膜硬化時に溶剤が揮発して大気を汚染することはありません。

#### ■ 脱有機溶剤化 (さくら精機)

1991年から有機溶剤を使用しない粉体塗料への移行を始め、脱有機溶剤化を推進しています。

#### ■ VOC除去装置 (さくら精機)

溶剤塗装では、「触媒燃焼式脱臭装置」により、発生したVOC (トルエン、キシレン)、ホルムアルデヒド等を酸化分解してクリーンなガスにして排出しています。これにより、大気環境浄化に努めています。



触媒燃焼式脱臭装置

### 水質

#### ■ 工場廃液ゼロ (江戸崎共栄工業)

水は浄化設備を経由して循環させて再利用しています。最終的な工場廃液は加熱された回転ドラムによって水分を瞬間蒸発させるドラムドライヤーの採用で「工場廃液ゼロ」を実現しています。



ドラムドライヤー

### 土壌

#### 漏油防止対策

#### ■ 床のエポキシ塗装、オイル吸収用パッドの設置 (ウチダエムケー SDN.BHD)

#### ■ 防油マットとバキューム装置、防油砂、オイルフェンスの常備 (サンテック)



床のエポキシ系塗装とオイル吸収パッド



防油マットとバキューム装置



防油砂とオイルフェンス

## 【ウチダ エコ リゾートファクトリー (江戸崎共栄工業株)】

ウチダ エコ リゾートファクトリー (江戸崎共栄工業) (茨城県) は2001年1月『茨城県リサイクル優良事業所』に認定され、さらに2002年6月には『茨城県地球に優しい企業表彰』を受賞いたしました。これは、水性リサイ

クル塗装システムを全国に先駆け1991年から導入することで、廃塗料の97% (平均) を再利用し、工場廃液ゼロ等、廃棄物の発生抑制に積極的に努めてきたことが認められたものです。



豊かな自然環境と共生する厚生棟と工場棟



霞ヶ浦の環境保全のため工場廃液ゼロを実現

## 4 物流工程における取組み (物流体制の整備)

### ■ 輸送における環境配慮及び社会貢献

#### ■ 低公害車の導入

配送用トラックの排出ガスを削減するために、順次CNG(圧縮天然ガス)トラックの導入を進めています。2007.7.20現在17台。その他のトラックについても低排出タイプのトラックへの切り替えを推進しています。



#### ■ モーダルシフトの推進

トラック輸送から鉄道貨物利用への転換を推進しています。2006年8月～2007年7月までの鉄道貨物利用は310トンです。



#### ■ エコドライブの推進 (オリエント・ロジ、陽光)

デジタルタコグラフの導入により、ドライバーに速度オーバーや急発進・急加速等を警告します。また運行データからドライバーの特性を把握し、安全で経済的な運行管理につなげています。長時間のアイドリングや非効率的な運行を制御することでCO<sub>2</sub>の排出が抑えられ、燃費も向上し、物流部門における環境負荷低減に貢献しています。

### ■ 梱包材回収・リサイクル

#### ■ 産業廃棄物収集車

企業として責任を持って産業廃棄物の適正な処理を行うために、グループ企業の物流会社は産業廃棄物収集運搬許可を取得しています。収集トラック(パッカー車)にて倉庫や搬入現場で発生した不要梱包材を分別回収し、適正な廃棄、再資源化を実施しています。



#### ■ 通い箱の使用

物流センター拠点間の商品補給において、事務機器・教育商品を中心に通い箱(オリコン通い箱)を活用し、不要な梱包材を発生させない運用を行っています。



#### ■ 発泡スチロールのリサイクル

回収した発泡スチロールは物流センターで減容機によって圧縮固化し、原料リサイクルに利用しています。



#### ■ 音声警報器の導入 (陽光)

音声で事故防止効果を発揮する音声警報器『ミックボックス』をトラックなどの社有車100台に導入。エンジンをかけると「わき見運転は危険です」などの音声流れ、右左折やバック時、エンジン停止時も注意を促し、事故防止・安全への取り組みに役立っています。



#### ■ アルコール測定器の導入 (陽光)

アルコール検知器を導入し、全ドライバーに運行前の測定を義務付けました。基準値をオーバーした場合にはその日の運行を停止させ、代替ドライバーによる運行を行います。



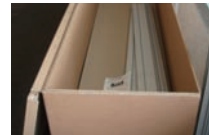
#### ■ リサイクルプラスチックパレット

物流センターで使用するパレットを木材からリサイクルプラスチック製に変更し、木材の消費を抑制しています。木製と比較すると、パレット寿命も長いことから費用削減効果にもつながっています。



#### ■ 紙製パレットの活用

木材梱包での商品輸出入削減を目指し、紙製パレットを活用した輸出入に切り替えています。使い捨てであった木枠梱包から紙製パレットとしたことにより、繰り返し活用が可能となり資源保護につなげています。



#### ■ 梱包内緩衝材の工夫

商品を保護する梱包内の緩衝材をロール紙にすることで、お客様にて廃棄する際の手間を削減するとともに、塩ビ等の化石燃料素材の削減を実施しています。





## ■ 物流効率化

### ■ 韓国・釜山物流センター

釜山新港CFS(Container Freight Station：コンテナ物流倉庫)内にグローバルな調達・物流拠点を開設しました。輸入品の調達・物流を手始めとし、組み立て加工・検品など付加価値のある業務へと進め、グローバルなサプライチェーンの全体最適を図る要とする計画です。



### ■ 江戸崎倉庫

製造拠点内に物流拠点を設けました。在庫の効率化と川上からの直送能力向上による物流効率化を図ります。



### ■ 大阪物流センター

既存の物流センターを集約し、大規模で高機能な新施設に移転しました。



## 5 製品使用後における取組み

### ■ 返品商品のリユース

当社の受注ミスなどによる返品商品のうち、商品自体に損傷のない場合は再梱包を行い新品再生しています。また新品再生が不可能な場合でも再販可能なものは販売を行います。リユースできるものは極力リユースを行い、産業廃棄物の発生を抑えています。



### ■ 使用済み製品のリユース・リサイクル

当社では、全国のパソコンリサイクル処理業者と業務提携し、パソコンを分解し分別処理を行い資源化しています。また、情報漏洩防止にも取り組んでおり、分別された情報記憶媒体については破砕することを処理業者に委託しています。リユースについても、専門業者との連携を行い、有効活用を行うようにしています。

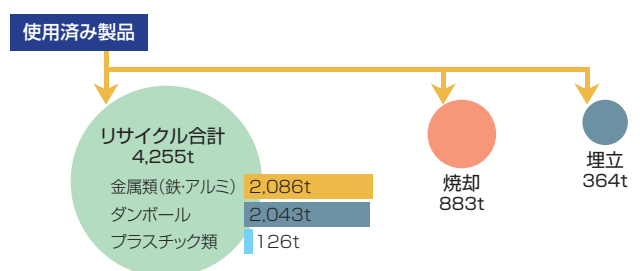


### ■ 下取り分解

お客様から引き取った下取り品・不要機器などは物流センターで分解し再利用への活動を行っています。再資源となる鉄・アルミニウムなどの金属類、梱包資材の紙類・助燃剤として燃焼代替エネルギーになるプラスチック類を分別しています。



### ■ 使用済み製品のリサイクル状況(2006年度)



## 6 オフィスにおける取組み

■ 内田洋行グループでは環境負荷低減活動を、環境マネジメントプログラムに沿って実施しています。

- 紙  
使用量の削減(資料の削減、裏紙使用など)
- 電気  
リサイクルの推進(分別回収の徹底)、使用量の削減(ON/OFFの徹底)
- ガソリン  
使用量の削減(アイドリングストップなど)低公害車導入の実施
- 廃棄物  
減量化の促進(分別回収の徹底、リサイクルの推進など)



電気使用量の削減(照明スイッチ)



リサイクルボックス



電気使用量の削減(パソコン)

■地球温暖化防止活動

内田洋行グループでは地球温暖化防止活動として、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。社員自らが身近なところから行動できる「チームマイナス6%のためのウチダ・アクション」を設定し活動しています。

- ・クールビズの実施
- ・上り2フロア、下り3フロアは階段を利用
- ・プリンター、コピーは不使用時は電源オフ
- ・30分以上の離席時はパソコン電源オフ
- ・退社時の消灯徹底
- ・節水に対する配慮
- ・ライトダウン

「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」  
「ブラックイルミネーション2007」  
に参加しました。



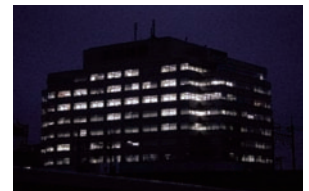
ブラックイルミネーション2007



チームマイナス6%



通常時



ライトダウン時

■内田洋行大阪支店リニューアル工事

内田洋行大阪支店ビルにおいて、空調設備・照明設備・衛生設備の更新工事を実施しました。リニューアル工事の目標を以下の3つとしました。

- 1.空調の効率的運転による省エネ対策の実現
- 2.照明環境、通常視作業に適した照度を確保するとともに省エネ対策の実現
- 3.省エネタイプの衛生設備導入による使用水量の低減

工事実施に際し、内田洋行の環境への取組みについて請負業者に説明し、工事期間中における工事廃棄物の適正処理や資源のリサイクルを含めた環境対策について要請しました。



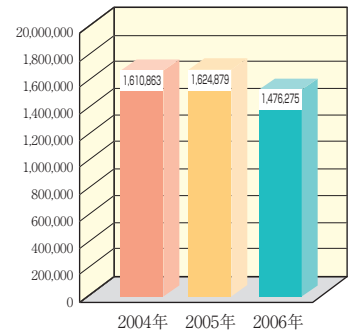
一括空調から  
省エネ個別空調へ



ルーバーのない  
節電型照明を導入

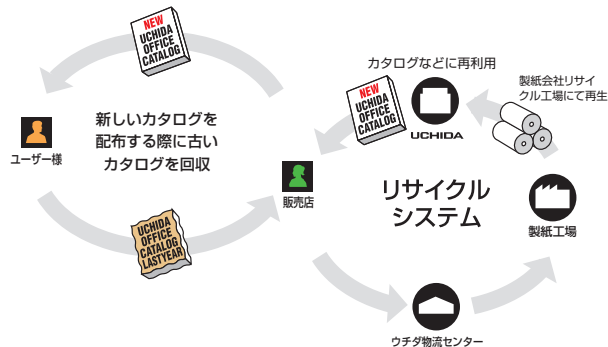


大阪支店 購入電力(kwh)



【カタログリサイクル】

内田洋行のカタログは毎年、新カタログ発行後に、旧版のカタログを回収しています。資源の有効な利用を実現するため、回収時の運搬は、商品配送トラックの空き便を活用しています。製紙会社工場にて、再生紙にリサイクルされ、新たに当社カタログ等に再利用しています。このようなりサイクル・システムを2000年より開始し、資源の循環活用に効果をあげています。



回収されたカタログ

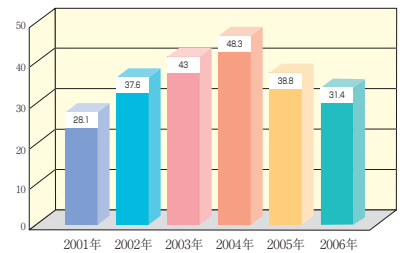


製紙工場でのリサイクル



リサイクルされたロール紙

カタログ回収量(t)



## ユニバーサルデザインとは

左利きである、妊娠中である、視力が弱い、聴力が弱い、車椅子を利用しているなど、あらゆる身体的特性を「個性」のひとつと捉え、すべての個性に配慮し、設計された製品やサービスのことです。

2001年からUD(ユニバーサルデザイン)自社認証を開始し、これまでにオフィス系商品500点、教育系商品350点をUD商品と認定しています。



**UD** より多くの人にやさしい製品・環境にするために11のポイントを設定し、それぞれに基準を設けました。基準をクリアした製品にはUDを付けています。

## 1 案内表示でのUD対応

### ■ユニバーサルデザインの考えに基づく 庁舎内誘導案内(千代田区新庁舎)

新庁舎は単純明快なゾーニングとシンプルなサイン表示、誘導を促す床タイルによって、安全で分かりやすい誘導案内システムとなっています。

内田洋行グループのパワープレイス(株)により、建物(病院、公共施設)内の案内表示(サイン計画)におけるユニバーサルデザイン対応を進めています。



誘導床タイル



千代田区役所様

## 2 新手法に基づくUD対応商品の評価・開発

### ■進化するユニバーサルデザイン対応手法

「思考発話法」「コーチング法」などによる製品評価、「ペルソナ」「多角的パラレルデザイン」等による仕様決定など、常に新しい手法でのUD対応を進めています。



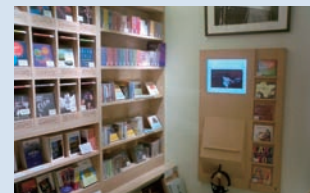
ハイパーストレージ HS

上下とも楽に確実に開閉できる扉、効率収納・セキュリティ対策・転倒対策等により、楽で見やすく安全・安心な収納家具。



CIERTO(シエルト)

ロングストローク上下、座奥可変、イージーオペレーション等により、さまざまなワークスタイル・体格姿勢に対応。



CD試聴システム(&音・旭書店様)

『直感で分かる』、『やり直しが利く』等のUD対応を盛り込んだ操作画面・表示・レイアウト。

## 3 UD取組み度企業ランキング

### ■社外からの認知度

企業UD取組み度ランキング2007(日経デザイン主催)において、全企業中33位にランクされています。7年前からの取組みや多分野における取組み姿勢を評価して頂いています。

## 地域との共生、社会への貢献

内田洋行グループは、良き企業市民であることを目指し、地域との共生・協調、社会への貢献に取り組んでいます。

### ■事業所周辺地域の清掃活動

内田洋行グループでは、事業所周辺地域の清掃活動に取り組んでいます。東京潮見オフィス・北海道支社・九州支社およびグループ会社では定期的な清掃活動を行っており、大阪支店およびグループ会社では地域の清掃活動イベントにも参加しています。

潮見オフィスでの定期清掃活動は1995年にスタート。今年度で12年を経過しました。年間を通して、毎月2回継続して実施しています。



北海道支社周辺



潮見オフィス周辺



九州支社周辺



クリーンおおさか2006  
(大阪市一斉清掃)



(株)オリエント・ロジ、  
(株)ウチダテク  
(千葉県船橋市)周辺



(株)陽光  
(大阪府大東市)周辺

### ■少年サッカーチームにグラウンドを開放

内田洋行グループの江戸崎共栄工業では、平坦な草地(調整池)を地元少年サッカーチームに土曜、日曜日に無償で貸し出しています。保護者用の駐車場やトイレも併せて提供しています。



ウチダエコリゾートファクトリー内の草地

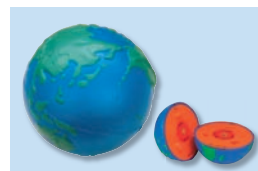


### ■教育教材を開発途上国の子供たちへ提供

内田洋行北海道支社では、国連NGO世界平和女性連合を通じて教育教材を開発途上国の子供たちに、提供しました。4回目となる今年度は「地球ボール」(地球の形をしたウレタンボール)と「アルファベット数パズル」を寄贈しました。



教育教材贈呈式



地球ボール



アルファベット数パズル

## ■環境募金を継続して実施

内田洋行九州支社では、各フロアに募金箱を設置し、独立行政法人環境再生保全機構を通じて、地球環境基金の環境募金を行っています。



地球環境基金

## ■札幌市「環境活動発表会」にて事業者発表

内田洋行北海道支社では、札幌市の要請に応え、同市にて初めての試みである、環境活動発表会において「支社におけるEMSの取り組み」についての発表を行いました。（札幌コンベンションセンターにて開催）



発表会の様子

札幌市発行のレポート

## ■防災訓練の定期実施

内田洋行各事業所では、リスク回避の観点からも、定期的に防災訓練を実施しています。

内田洋行潮見オフィスでは、2006年12月に実施しました。延べ640名参加のもと、全館避難訓練及び水消火器放水訓練を行いました。



東京 潮見オフィス

## ■ビジネスインターンシップ制度

学生のみなさんにビジネスの現場を体感してもらうため「ビジネスインターンシップ制度」を2004年から実施しています。

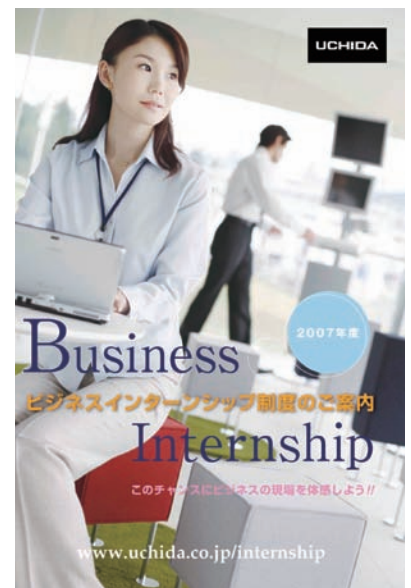
テーマは内田洋行が得意とする「IT」「オフィス環境」「教育」の3分野を中心に、販売・マーケティング・開発・デザイン・環境(Eco)・広報等 幅広い職場体験の機会を用意しています。工場見学・取引先への訪問・会議への参加等を通じて仕事への理解を深め、さらに課題解決に向けた提案に繋げられるカリキュラム作りを目指しています。

最終日は、各コース別の成果発表や意見交換を行なうなど、学生にとっては、プレゼンテーションの貴重な体験の場となります。

■ 受入実績	2004年 32名
	2005年 44名
	2006年 48名



CANVAS(キャンパス)での成果発表会



ビジネスインターンシップ募集案内

年	環境法規【抜粋】	各種認証取得・表彰	環境活動
1991 ～ 1992	・リサイクル法		・水性塗料リサイクルシステム導入（江戸崎共栄工業） 粉体・水性・電着塗装の揮発性有機溶剤を含まない環境対応塗料を採用。【VOC対策開始】 ・ドラムドライヤー導入による工場排液ゼロ達成（江戸崎共栄工業）
1993	・環境基本法	・ISO9001：PFU	・オフィス家具の樹脂部材の素材を表示
1994			・オフィス家具の分別設計を実施し、簡易分別可能なリサイクル型商品「ジャスト」シリーズを開発
1995	・容器包装リサイクル法		・抗菌性処理（MRSAや黄色ブドウ球菌などの細菌類の増殖を抑制する）を施した商品を開発
1996		・ISO9001：内田洋行 潮見オフィス ・ISO14001：PFU	・グリーン購入ネットワーク（GPN）会員登録
1997	・新エネルギー利用等促進に関する法律	・ISO9002：ウチダエムケー	・ウチダ製品アセスメントを実施 ・環境対策ガイドライン、環境商品選定チーム発足
1998	・地球温暖化対策の推進に関する法律	・ISO9001：さくら精機	・JOIFAグリーン購入ガイドラインの作成 ・開発事業部環境対策ガイドライン（第1版）を作成 ・環境指針と8つの行動指針を実行開始
1999		・ISO9001：江戸崎共栄工業、オフィスブレイン ・ISO9002：陽光 ・ISO14001：内田洋行 潮見オフィス	
2000	・グリーン購入法 ・循環型社会形成推進基本法	・ISO9001：ウエダコンピュータシステム、オリエント・ロジ、マービー ・ISO14001：ウエダコンピュータシステム、ウチダエムケー、江戸崎共栄工業、さくら精機 ・プライバシーマーク：内田洋行 ・大阪市「ゴミ減量優良賞」：大阪支店【1回】	・CNG天然ガス車導入を開始【1台】 ・環境報告書（vol.1）を発行開始 ・第1回仕入先環境会議実施 ・ウチダカタログリサイクル開始
2001	・PRTR法 ・資源有効利用促進法 ・自動車NOx・PM法	・ISO9001：ウチダインフォメーションテクノロジー、ウチダテクノ、エス・アイ・コウ ・ISO9002：ウチダエスコ ・ISO14001：ウチダテクノ ・プライバシーマーク：ウチダデータ ・大阪市「ゴミ減量優良賞」：大阪支店【2回】	・環境報告書（vol.2）を発刊 ・CNG天然ガス車導入【5台追加、計6台】 ・環境対策室設置
2002	・RoHS指令（EU）	・ISO9001：ウチダユニコム、キャビン工業、サンテック、東北ユーザック ・ISO14001：内田洋行 大阪支店・北海道支社・九州支社、東京ウチダシステム、陽光 ・「茨城県地球に優しい企業」表彰：江戸崎共栄工業 ・大阪市「ゴミ減量優良賞」：大阪支店【3回】	・環境報告書（vol.3）を発刊 ・CNG天然ガス車導入【3台追加、計9台】 ・パソコンのリサイクルによる再資源化を開始 ・化学物質ガイドライン策定チームにより、ウチダ化学物質総覧を作成【1037物質を選定】
2003	・学校環境衛生基準改訂 ・建築基準法改訂 ・環境保全・環境教育推進基本法 ・個人情報保護法	・ISO9001：太陽技研 ・ISO14001：ウチダエスコ、オリエント・ロジ、サンテック、滋賀ウチダ、太陽技研、大阪ウチダシステム ・大阪市「ゴミ減量優良賞」：大阪支店【4回】 ・福岡市「ごみ減量・再資源化 優秀事業者表彰 優秀賞」：内田洋行 九州支社、ウチダデータ、日本オフィスメーション、九州ウチダシステム	・環境報告書（vol.4）を発刊 ・CNG天然ガス車導入【6台追加、計15台】 ・コージェネレーションシステム導入（江戸崎共栄工業） ・「室内空気環境測定システム」を製品化
2004	・学校環境衛生基準改訂	・ISO9001：ウチダエスコ ・ISO14001：内田洋行 新川本社、北海ウチダ、マービー ・プライバシーマーク：ウチダエスコ、ウエダコンピュータシステム、東北ユーザック ・ISMS ウチダインフォメーションテクノロジー、PFU ・大阪市「ゴミ減量優良賞」：大阪支店【5回】 ・環境省・札幌市「エコドライブ・コンテスト優秀賞」：内田洋行 北海道支社	・環境報告書（vol.5）を発刊 ・CNG天然ガス車導入【3台追加、計18台】 ・ウチダ製品アセスメントを改訂
2005	・大気汚染防止法改正（VOC）	・プライバシーマーク：エス・アイ・コウ ・ISMS：ウチダエスコ	・環境報告書（vol.6）を発刊 ・ウチダ環境パートナーシップ活動指針作成 ・ウチダ環境通信発信 ・環境教育の社員研修を実施（e-ラーニング：1565名修了）
2006	・グリーン購入法改正（原木伐採合法） ・省エネ法改正（荷主、運送） ・地球温暖化対策推進法改正 ・廃棄物処理法施行令改正	・プライバシーマーク：東京ウチダシステム ・ISO27001（ISMS）：ウチダユニコム、ウチダインフォメーションテクノロジー、PFU、ウチダエスコ	・環境・社会報告書（vol.7）を発刊 ・ウチダ環境パートナーシップ活動指針を改訂 ・ウチダ製品アセスメントを改訂 ・CNG天然ガス車導入【1台追加、計19台】 ・環境教育の社員研修を実施（e-ラーニング：1574名修了）
2007	・消費生活用製品安全法改正	・プライバシーマーク：ウチダスペクトラム ・ISO27001（ISMS）：内田洋行 情報システム事業部、オフィスブレイン ・札幌市「環境活動発表会事業者発表」：内田洋行 北海道支社	・環境・社会報告書（vol.8）を発刊 ・ウチダ環境パートナーシップ活動指針＜第2版＞を発行 ・環境教育の社員研修を実施（e-ラーニング：1695名修了）

	主な環境商品	企業市民活動、情報管理
	<ul style="list-style-type: none"> <li>収納家具SU-II (水性・粉体塗料：VOC対策)</li> </ul>  <p>SU-II</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>コアチェア (素材表示)</li> </ul>  <p>コアチェア</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャストパネル・デスク・チェア (分別設計)</li> </ul>  <p>ジャストパネル</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンティーンMS (抗菌材)</li> </ul>  <p>スモーキングステーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンナップ活動 (地域貢献活動) 開始</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>スモーキングステーション (空気清浄)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生PETのジャストパネル (再生材)</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>スラグを活用したシステムフロアNA (再生材)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護方針を策定</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接着剤不使用のNeXチェア (分別設計)</li> <li>・ピオトープ (環境教育)</li> </ul>  <p>NeXチェア</p>  <p>ピオトープ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーマークを取得 (商社業界初)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐材使用の角椅子 (間伐材)</li> </ul>  <p>角椅子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UD (ユニバーサルデザイン) 認証を開始 【教育系商品313点】</li> </ul>  
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・D-MOLO (ロングライフ)</li> </ul>  <p>D-MOLO</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UD (ユニバーサルデザイン) 認証を開始 【オフィス系商品450点】</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別可能メラミンとUD対応のFEEDデスク (分別設計・UD)</li> <li>・CASTチェア (分別設計・再生材)</li> </ul>  <p>FEEDデスク</p>  <p>CASTチェア</p> <p>アルミ部材の多使用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニングによるプライバシーマークの全社員研修を実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光触媒のシステムウォールET (抗菌・消臭)</li> <li>・ミーティングチェアMX-50 (分別設計)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニングによるプライバシーマークの全社員研修を実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム収納STシリーズにユニポードピュア採用</li> <li>・重要文書回収ボックス (リサイクル)</li> <li>・ロビーチェアUT-9 (VOC)</li> </ul>  <p>ロビーチェアUT-9</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニングによるプライバシーマークの全社員研修を実施</li> <li>・クリーンおおさか2005に参加</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・i-deck WF (分別設計)</li> </ul>   <p>i-deck WF</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニングによる個人情報保護の全社員研修を実施</li> <li>・クリーンおおさか2006に参加</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DT ワゴンシリーズ (リサイクル設計、リデュース設計)</li> </ul>  <p>DTワゴンシリーズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニングによる個人情報保護の全社員研修の実施を予定 (11月より)</li> <li>・クリーンおおさか2007に参加</li> <li>・盤樹の森 (箱根町) に協賛</li> </ul>



揮発性有機溶剤を含まないアロマフリーで植物油100%の「植物性インキ」を使用しています。

ミックス品  
FSC認証済み管理された  
森林からの製品グループです  
www.fsc.org Cert no. SA-COC-1277  
© 1996 Forest Stewardship Council